

鹿児島大学の地域防災活動

Disaster prevention activities by Kagoshima University

令和6年3月



鹿児島大学
地域防災教育研究センター

CONTENTS

大学の防災の知を地域へ

鹿児島大学各教員の防災活動

◎キーワード検索	01
◎酒匂 一成	04
◎佐藤 宏之	06
◎田松 裕一	08
◎松成 裕子	10
◎黒光 貴峰	12
◎平 瑞樹	14
◎日隈 利香	16
◎中村 啓彦	18
◎寺本 行芳	05
◎齋田 倫範	07
◎升屋 正人	09
◎松田 史代	11
◎木村 至伸	13
◎柳田 信彦	15
◎井村 隆介	17
◎柿沼 太郎	19

鹿大防災セミナー

◎令和5年度の鹿大防災セミナー	20
◎鹿大防災セミナー開催実績	21

鹿大の防災シンポジウム

◎令和5年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム	24
◎防災シンポジウム開催実績	25



キーワード検索

(五十音順)

【い】

意識調査	12
医療従事者人材育成	15
インフラ	04

【え】

衛星インターネット	09
-----------	----

【か】

海岸砂防	05
海洋環境	18
火山	05
火山災害	17
河川防災	07

【き】

気候変動	18
気象災害	18
気象に起因する波動・流動	19
九州管内データ	16
教材開発	12

【く】

グリーンインフラ	14
----------	----

【け】

原子力災害	10
-------	----

【こ】

口腔ケア	08
------	----

【さ】

災害医療	08
災害史研究	06
災害対策	07・16
再発予防	15
桜島火山災害	10
砂防	05

【し】	
社会基盤	13
歯科的身元確認	08
地震災害	13・17
児童発達支援	16
自然災害科学	17
自然史	17
地盤災害	04
地盤の震動特性	13
住環境整備	11
常時微動観測	13
身体障がい	11
【せ】	
精神科リハビリテーション	15
精神障害作業療法	15
【た】	
退院支援	15
対策・復旧	04
耐震性能評価	13
高潮	19
【ち】	
地域防災	05・07
地球温暖化	18
治山	05
超高速ブロードバンド	09
【つ】	
津波	19
津波災害	17
梅雨	18
【と】	
島嶼の統計的性質	19
透水性海浜の浸透流	19
土砂災害	05・17

【の】	
農業用施設災害	14
農地災害	14
【ひ】	
避難所運営ゲーム	10
【ふ】	
福祉用具	11
文化財防災	04
【ほ】	
放課後等デイサービス施設	16
法歯学	08
放射線看護学	10
防災科学教育	17
防災教育	06・12
防災行政無線	09
防災計画	04
防災GIS	14
【み】	
水の波	19
【む】	
無線LAN	09
【ゆ】	
UAV（ドローン）	14
【り】	
理学療法	11
リスクコミュニケーション	10
リハビリテーション	11
流体と構造物の相互干渉	19
緑化	05
【れ】	
歴史資料保全	06

各教員の防災活動

さこう かずなり

酒匂 一成 (理工学域工学系・教授)

専門分野 地盤工学、地盤防災
所属学会 土木学会、地盤工学会

外部委員 国土交通省九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター、鹿児島県土砂災害対策アドバイザー、鹿児島市防災専門アドバイザー、国土交通省九州地方整備局総合評価技術委員会、国土交通省九州地方整備局九州河川技術懇談会、鹿児島県道路トンネル検討会、人吉市指定文化財等保存活用専門会議など



貢献可能な活動

●土砂災害の対策・復旧

国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所、大隅河川国道事務所、薩摩川内市甕島、垂水市、さつま町、長島町が管理する道路法面の被災箇所について、被災メカニズムおよび復旧対策工法等に関する助言を行いました。

●道路、河川堤防

鹿児島東西道路シールドトンネル工事について、地盤工学的観点から現地調査および助言を行いました。川内川および肝属川の河川行政について地盤工学的観点から助言を行いました。

●文化財保全(地盤工学観点から)

南さつま市加世田麓伝統的建造物群保存地区の防災計画策定について、地盤工学的観点から現地調査および助言を行いました。南さつま市梶ノ原遺跡における地盤工学的課題について現地調査および助言を行いました。人吉城跡での地盤災害について、被災メカニズムや復旧対策工法に関する助言を行いました。



●土砂災害・地盤工学に関する講演

「豪雨・地震による土砂災害から身を守る」、「豪雨時の土砂災害に対する減災・防災技術開発」、「工学的活用を目指した鹿児島版地盤情報データベースの高度化に向けた開発について」など、土砂災害・地盤工学に関連する講演を、技術者、市民、高校生向けに行っています。

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
シンポジウム	土木学会会員	オンライン	第11回土砂災害に関するシンポジウムの編集幹事長を務めた。
招待講演等	鹿児島県の建設業者	オンライン	建設技術研修会における地盤情報データベースに関する講演を行った。
指導・助言等	土木技術者	研究室	パーティクルセル工法擁壁の開発に関わる土槽試験や設計解析に関する助言を行った。
指導・助言等	西日本高速道路(株)技術者	鹿児島高速道路事務所	単人道路野久美田トンネルの坑口対策について助言を行った。
委員会等	行政担当者等	鹿児島国道事務所	鹿児島東西道路シールドトンネル工事に関する専門的、技術的アドバイスをした。

キーワード

地盤災害、対策・復旧、インフラ、文化財防災、防災計画

各教員の防災活動

てらもと ゆきよし
寺本 行芳 (農水産獣医学域農学系・准教授)

専門分野 砂防学、森林防災学
所属学会 砂防学会、日本緑化学会、日本海岸林学会など
外部委員 鹿児島市防災専門アドバイザー委員、屋久島世界自然遺産地域高層湿原保全対策検討会委員、熊本県公共事業再評価監視委員会委員



貢献可能な活動

●土砂災害発生の仕組みの解明と防災対策

鹿児島県は全国的に土砂災害が多い地域です。この背景として、県土が脆い火山噴出物由来の地質で構成されていることや、豪雨が多いことが挙げられます。土砂災害の原因となる侵食・崩壊・土石流の発生の仕組みや、土砂災害の特性を踏まえた防災対策等について検討を行っています。また、近い将来に予想される桜島の大噴火による複合災害発生の仕組みの解明と影響評価、防災対策等についても検討しています。

●森林の防災機能と管理

日本の国土の約70%は、森林によって覆われています。森林は、地表面の侵食防止や斜面崩壊の防止等の防災機能を有しています。森林の持っている防災機能は、森林伐採や再造林が行われたかどうか、森林の成長段階、森林管理が実施されてきたかどうか等によって変化します。国土保全や山地災害防止に資するため、森林の防災機能の評価や災害に強い森林整備の方法を検討しています。

●海岸林の防災機能と管理

海岸林はこれまで、飛砂の侵入を防いだり、津波の勢いを弱めたりする機能等を発揮してきました。今後発生する大きな津波に対しても、防災機能を発揮することが期待されています。しかしながら、近年、手入れ不足等による海岸林の防災機能の低下が危惧されています。海岸林の防災機能の評価や防災機能を向上させるための森林管理について検討しています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
招待講演等	町内会長、役員、自治防災組織会長・役員、市民	鴨池公民館、郡山公民館、田上公民館、谷山サザンホール、伊敷公民館、松本支所、城西公民館、吉田公民館	鹿児島市地区別防災研修会において、「風水害に備える～地域で取り組む防災活動のヒント～」のタイトルで講演した。
特別講演、現地研修会講師	防災担当技術者、県・市町防災担当者	末吉総合センター、日置市伊集院町健康づくり複合施設「ゆすいん」	令和5年度山地防災ヘルパー現地研修会において、「山地災害発生の仕組みと防災対策」のタイトルで特別講演と、治山施設現場における防災に関わる注意点や助言を行った。
取材対応	記者	郡山公民館	梅雨期の防災に関する注意事項についてコメントした。
取材対応	記者	郡山公民館	梅雨期の防災・減災に関して、地域住民が日頃から備えるべきことや注意すべきことについてコメントした。
委員会	県担当者	熊本県庁	熊本県公共事業再評価監視委員会委員として、治山・林道・砂防事業などに関する助言や再評価を行った。

キーワード

地域防災、土砂災害、砂防、治山、火山、緑化、海岸砂防

各教員の防災活動

さとう ひろゆき
佐藤 宏之 (法文教育学域教育学系・准教授)

専門分野 歴史学(近世日本史)
所属学会 歴史学研究会、歴史科学協議会、日本史研究会、地方史研究協議会など
外部委員 鹿児島歴史資料防災ネットワーク事務局、鹿児島県文化財保護審議会委員、
鹿児島県歴史・美術センター黎明館史料編さん委員会委員、鹿児島県史料
集刊行委員会委員など



貢献可能な活動

●地域に残る歴史資料を、自然環境の変化や歴史環境の変化による消失・消滅の危機から保全する活動

阪神淡路大震災(1995年)を契機に、歴史資料の所在調査と保全活動を行うネットワーク組織が全国各地に発足しました。巨大地震・津波や集中豪雨、台風などの大規模自然災害が発生すると、その被災地では、瓦礫の中から個人や地域にまつわる記録や記憶を伝える資料が丁寧に拾い上げられるなど、個人や地域の歴史資料を守ることの意義が見直されています。歴史資料は、社会構造の大変動による人口減少や大規模災害などにより危機に瀕している地域存続の基盤であり、地域のアイデンティティとして重要です。しかし、地域に残る歴史資料のすべてをまるごと保全したからといって歴史文化が未来に継承されるわけではありません。人びとの日々の生活において有益なものとして活用できて初めて継承したといえるでしょう。地域の歴史資料を消失・消滅の危機から保全するということは、未来の歴史研究や地域社会のために「未来の歴史資料を保全する」ことにつながります。

●過去の歴史災害とその社会的応答(災害対応、復興など)に関する研究

過去に、どこで、どのような災害があったのか、そこからどのように復興してきたのか。過去に生きた人びとは、こうした災害に対して、ただ手をこまねいて運命を享受していただけではありません。人びとは危機に直面して、あるいは危機を予見して、さまざまな短期的あるいは長期的な対策を試みており、社会全体が災害に対応した、あるいは災害からの回復力を組み込んだものであったといえます。こうした社会の姿を被災前からの課題を知り、被災直後・被災地だけではなく、それを科学的に見る目を養い、そこから得た知識や情報を自分の生活に活かし、防災(被害をなくす)・減災(被害を軽減する)・縮災(被害から早く抜け出す)に役立てるような対応力や行動力を育成します。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
歴史資料保全	市民	始良市・出水市・いちき串木野市ほか	①歴史資料の所在悉皆調査、②災害時における協力体制の確立、③デジタルカメラによる歴史資料の撮影と保全活動を行った。
歴史資料保全	市民	『地域歴史文化継承ガイドブック』	「鹿児島歴史資料防災ネットワーク」(http://kagoshima-shiryounet.seesaa.net/)の「設立の経緯」、「活動の特徴」を紹介した。
災害史研究	市民	著書・論文	地域に残る歴史資料を用いて、気候変動と地域社会の対応について、『自然災害と共に生きる』、「近世種子島の気候変動と地域社会」、「蒲生御飯屋日帳・廻文留にみる気候変動と地域社会」にまとめた。
防災教育	市民	出水市・霧島市	大規模自然災害の発生を想定した文化財レスキューのための災害図上訓練ワークショップやWeb会議システムとオンラインホワイトボードを活用して大規模自然災害時を想定した文化財保全オンラインシミュレーションを実施した。
防災教育	小学生	南種子町	地域にある防災資源を、写真と地図を手がかりに、子どもたち自身が探し当て、「なぜそれが地域防災にとって重要なのか」を考える「防災ナビゲーションウォーク」を実施した。

キーワード

歴史資料保全、災害史研究、防災教育

各教員の防災活動

さいた ともりの
齋田 倫範 (理工学域工学系・准教授)

専門分野 環境水理学、海岸工学
所属学会 土木学会、砂防学会、日本海洋学会
外部委員 肝属川学識者懇談会委員、九州河川技術懇談会委員、川内川学識者懇談会委員、かごしまコンパクトなまちづくりプラン推進協議会委員



貢献可能な活動

●豪雨災害発生時の災害状況調査

最近では、令和2年7月九州豪雨災害に伴う県内二級河川の被災状況調査、および県内で発生した内水氾濫に関する調査を実施しました。また、同豪雨災害に関連し、球磨川流域における調査にも参画し、現在は、九州大学、佐賀大学、福岡大学と球磨川流域の防災力の向上に関する共同研究に取り組んでいます。

●河川災害・災害対策に関連する出前講義など

一般向けの講義（主に高校生や小・中学校、高等学校教諭を対象）として、「豪雨災害とその防除～河川氾濫を中心として～」、「地域防災の最前線～河川災害編～」などを実施しました。また、第32回鹿大防災セミナーにおいて『近年の豪雨に伴ういくつかの事象と関連する研究の取り組みについて』の題目で話題提供しました。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
委員会等	行政担当者	オンライン	肝属川水系河川整備計画、ならびに河川改修事業に関する助言を行った。
委員会等	行政担当者	国土交通省川内川河川事務所	川内川水系河川整備計画、川内川直轄河川改修事業、ならびに川内川総合水系環境整備事業に関する助言を行った。
委員会等	行政担当者	川内川河川事務所 および オンライン	川内川およびその支川周辺の浸水被害について、課題の抽出・改善策の検討に関する助言を行った。
講演	鹿児島県、 鹿児島市、 福岡管区気 象台ほか	鹿児島大学 オンライン	第32回鹿大防災セミナーにおいて『近年の豪雨に伴ういくつかの事象と関連する研究の取り組みについて』という題目で講演した。
取材対応	記者	鹿児島大学	平成29年7月九州北部豪雨を受けてどのような準備が今後必要となるか？、想定を超える豪雨災害にどう備えるべきか？について説明した。また、東シナ海沿岸で発生する副振動災害に対する防災研究について紹介した。

キーワード

地域防災、河川防災、災害対策

各教員の防災活動

たまつ ゆういち
田松 裕一 (医歯学域歯学系・教授)

専門分野 解剖学、法歯学
所属学会 日本解剖学会、歯科基礎医学会、日本法歯科医学会
外部委員 警察歯科医、海上保安歯科医



貢献可能な活動

● 歯科的身元確認

鹿児島県歯科医師会、鹿児島県警察、第十管区海上保安本部等の関係機関と連携して身元の不明なご遺体に対して歯科所見による個人識別をおこないます。大規模災害時には歯学部としても被災地の身元確認業務に協力します。また、平時にはセミナーや出前授業を通して、「歯科的身元確認とはどういうものか」などの情報提供や「歯科医院で歯の記録を残しておくことが万が一の時に自分の個人識別に役立つ」ことなどの啓発に関するお話をすることもできます。

● 避難所等における口腔ケア(運営委員の立場から歯学部・大学病院歯科診療科の活動を紹介するものであり、田松個人の活動ではありません。)

避難所で過ごす被災者の口腔清掃状態の悪化は、特に高齢者では誤嚥性肺炎のリスクを高め命にかかわります。大規模災害時には鹿児島県歯科医師会、鹿児島大学病院、鹿児島大学歯学部の災害協定に基づき、避難所等での口腔ケア(歯の治療、入れ歯の修理、口腔清掃指導など)をおこないます。平時には、「オーラルフレイル(口腔機能低下症)や災害時に注意すべきお口の健康」などの情報提供や啓発セミナーをおこなうことができます。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
シンポジウム	住民	鹿児島県 歯科医師会館	地域住民を対象に「防災シンポジウム－歯科から発信する地域防災と災害対策準備－」を開催し、大学、歯科医師会、関係機関の防災・災害担当者による歯学部との協力関係や災害時の活動を紹介し、歯学部の防災分野での役割について社会的理解を深めていただくことを企画した。
講演	医師、歯科医師、警察官、海上保安官	鹿児島県医師会館	災害時に連携する関係機関の職員を対象に「第9回死体検案・身元確認業務等研修会」にて「歯学部での法歯学教育と戦没者遺骨収集事業への参加経験」について講演を行った。
指導・助言等	警察鑑識課担当者	鹿大医学部 法医解剖室	死因究明をおこなう法医学分野・林教授と協力し、警察から要請を受けた際に歯科所見による個人識別に協力した。
指導・助言等	教諭、養護教諭、栄養教諭	郡元キャンパス	教員免許更新時講習の受講者を対象に「地域防災の最前線」の中で「医療災害」を担当した。

キーワード

災害医療、法歯学、歯科的身元確認、口腔ケア

各教員の防災活動

ますや まさと
升屋 正人 (情報基盤統括センター・教授)

専門分野 情報通信工学、生物情報科学
所属学会 情報処理学会、電子情報通信学会、日本生物物理学会
外部委員 総務省地域情報化アドバイザー、デジタル庁デジタル推進委員、鹿児島県DX推進アドバイザー



貢献可能な活動

●災害時の情報通信に関すること

鹿児島県奄美大島情報通信体制等検証委員会のメンバーとして平成22年10月奄美豪雨災害における情報通信体制の調査・検証を行い、情報通信手段、特に携帯電話が使用できなくなる場合を想定した衛星携帯電話など必要な機器の事前の準備と、バックアップ電源の配備が不可欠であることを明らかにしました。

●防災行政無線の整備・更新に関すること

防災行政無線は法改正によりデジタル方式での整備しか認められていません。新規整備のほか、アナログ方式からの更新やIP告知からの更新に際して、地域の実情に応じた最適なデジタル方式などによる整備・更新方法を提案できます。また、各種のスマートフォンアプリなど自治体による災害時の情報伝達方法を紹介できます。

●災害耐性を意識した情報通信基盤の整備に関すること

情報通信基盤の整備において回線の冗長化は不可欠です。特に、上流回線についてはその切断により下流が全滅するため複数経路の確保が欠かせません。災害の規模や有無にかかわらずこれまで複数の断線事例・障害事例があります。これらに基づいて、断線の影響と上流回線の冗長性確保の必要性について説明できます。



こちらは、高速通信網未整備離島において無線LANにより通信ネットワークを構築した際を中心となるアンテナ設備です。当該離島には現在では光ファイバ網が整備されており、当該アンテナ設備は撤去済みです。

●災害時にも有効な無線通信機器の配備に関すること

無線通信機器には衛星回線を用いるもの、免許が必要なものなど複数の種類があり、それぞれ異なる性質を持ちます。災害時にはさまざまな場面で無線通信機器が有用であるが、どの種類の機器が有効に機能するかは状況により異なります。費用対効果も含め、必要とする場面に応じた最適な無線通信機器について、その特徴を踏まえて提案できます。

●災害時の情報通信手段の確保に関すること

発災前の情報収集、避難指示の情報伝達、安否確認など、災害時にやりとりを行うには情報通信手段は欠かせません。しかし、災害時には、これら情報通信手段のうちいくつか、または、全てが失われる可能性があります。より多くの情報伝達手段を確保しておくことで、すべての手段を失う可能性を最小化できます。

●避難所等への公衆無線LANの整備に関すること

大多数の人がスマートフォンを所持している現在、携帯電話網が利用できなくなると災害時の情報伝達に極めて大きな影響があります。このような場合でも避難所に公衆無線LANが整備されていれば影響を小さくできます。低コストかつ有効な整備方法について、大学における無線LANの構築・運用経験に基づいて助言できます。

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
委員会等	行政担当者	県外	情報通信基盤の整備について助言した。

キーワード

超高速ブロードバンド、無線LAN、防災行政無線、衛星インターネット

各教員の防災活動

まつなり ゆうこ
松成 裕子 (医歯学域医学系・教授)

専門分野 放射線看護学、災害看護学
所属学会 日本放射線看護学会理事、日本災害看護学会評議員、日本看護研究学会九州・沖縄地方会役員、他
外部委員 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会理事、鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員、鹿児島県原子力災害医療ネットワーク検討委員、鹿児島市防災専門アドバイザー委員、他



貢献可能な活動

●原子力災害におけるリスクコミュニケーションの促進事業

環境省の「放射線に係る健康影響への不安を抱える住民等に対するリスクコミュニケーション」事業を活用して、研修会、セミナー等を企画し、当センターとの共催として実施しています。これは、本県には、原子力発電所が立地していることから、周辺住民の放射線の健康影響に関する不安を軽減するため、医療職、自治体職員、関係機関、関係者に対し、原子力災害時のリスクコミュニケーションの推進を図るために事業を促進しています。

●桜島火山災害における避難所運営ゲームの啓発活動

平成 28 年度プロジェクト「大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取組み」の「WG II 生命と暮らしへの影響」の活動から、有志と共に「桜島が大正噴火規模の噴火を起こすことになれば、人々の生命や暮らしには何が起こるのか」の問いに取り組みました。そして、地域社会で暮らす住民が桜島火山版避難所運営ゲームを体験することで、災害における自助・共助の必要性を理解し、自助力を獲得するための行動を起こすことにつながるとし、教材を開発しました。そして、防災・減災の対策の強化のための活動を継続しています。

●原子力災害医療ネットワークの整備、拡大

鹿児島県原子力災害医療ネットワーク検討委員として、有事の際に、効果的かつ適確な医療活動を行うための原子力災害医療体制について、情報提供したり、情報交換したり、地域の現状や課題の把握、さらにマニュアルの改正等の検討に参加して、関連団体の連携強化の支援に努めています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
セミナー	鹿児島県内の保健師	オンライン	令和3年度の環境省の「原子力災害影響調査等事業（放射線による健康不安の軽減等に資する人材育成事業及び住民参加型プログラム等の実施並びに放射線による健康不安リスクコミュニケーションに係る拠点の設置等）」として、当センターとの共催で鹿児島県において、保健医療福祉関係者を対象に、「保健師の方を対象とした放射線に関する研修会」を実施した。
事業・イベント等	市内在住の高校生	始良市消防局	始良市消防局において実施される「こども消防士育成プロジェクト」におけるゲームのファシリテーター研修会を地元の高校生に実施し、メディアの取材を受けた。
啓発活動	総合防災訓練参加者	清水中学校	令和3年度第52回桜島火山爆発総合防災訓練時に参加し、広報活動を行った。訓練の内容は、見学、体験型訓練もあり、清水中学校生徒が参加した。市長に事業の内容を説明した。また、ブースを見学してくれた中学生に対し、桜島火山版HUG避難所運営ゲームパイロット版の説明と漫画「桜島とともに生きる」を配布することができた。
自治体説明会	鹿児島市民	公民館等	原子力防災訓練に役立つための講話を行った。
自治体委員会	鹿児島県	県内施設	原子力安全・避難計画等防災に関する検討を行った。

キーワード

原子力災害、桜島火山災害、避難所運営ゲーム、リスクコミュニケーション、放射線看護学

各教員の防災活動

まつだ ふみよ
松田 史代 (医歯学域医学系・助教)

専門分野 理学療法学(小児・高齢者)、パラスポーツ(障がい者スポーツ)、介護予防
所属学会 日本理学療法士協会(専門理学療法士(神経系))、日本パラスポーツ協会
(上級障がい者スポーツ指導員)、日本神経科学学会、サルコペニアフレイル
学会
外部委員 鹿児島県理学療法士協会(専門領域部長)、鹿児島県障害者スポーツ指導
者協議会(幹事:クラス分け事業部)



貢献可能な活動

●障がいのある方(特に身体障がい)への接し方・対応・介助・支援(避難所での廃用症候群予防、身体活動支援含む)

理学療法士は、身体に障がいのある方や障がいの発生が予測される人に対して、基本動作能力の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法などで、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。医療機関や介護保険分野での理学療法士としての経験や、公民館での住民の方の健康指導などの経験の専門性を活かした活動をできれば、と思っております。

●障がいを呈した方や要支援者の避難所等への移動方法について(介助や支援方法含む)

理学療法士の専門性を生かし、地域で生活される障がいを呈した方(主に車いすや杖使用される方)の移動方法への介助の方法や支援のあり方などサポートすることができます。全国障がい者スポーツ大会の鹿児島県選手団役員として開催県までの移動(飛行機や新幹線、バスなど)や大会期間中の支援・サポートを行っています。それぞれの障がいに応じた介助・支援をより具体的にサポートできればと思っております。

●避難所の環境整備(バリア問題、福祉用具など含む)

住環境整備は、障がいの特性により対応が異なります。避難所という限られた空間で、どのような配慮が必要なのか、どのようなところを整備しなければならないのか、などの検討が必要になってくると思います。また、福祉用具の使用や選択についても、専門性を活かしたサポートができればと思っております。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
出前講義	高校生	県内の高校	鹿児島県・熊本県の高校で「理学療法とは」とのテーマに沿って理学療法士の仕事内容について話をしている際に、地域での活動の一環で防災の際にも役割があることを話した。
指導・助言等	障害者手帳保有者	鳴池補助グランド等	全国障がい者スポーツ大会(栃木大会)へ出場する選手の開催県までの移動手段の確認や介助の必要性・在り方などを助言した。また、実際に帯同しサポートを行った。
指導・助言等	地域在住の高齢者	鹿児島市内公民館	鹿児島市内在住の高齢者を対象に、廃用症候群の予防や住環境整備のチェック項目や注意点などについて話した。
指導・助言等	地域在住の高齢者	十島村各島	保健事業と介護予防等との一体的な実施を踏まえた高齢者の保健事業の業務として十島村の高齢者への身体機能評価や健康教室の実施、集会所のバリア面の相談に対する助言などを行った。

キーワード

リハビリテーション、理学療法、住環境整備、身体障がい、福祉用具

各教員の防災活動

くろみつ たかみね

黒光 貴峰 (法文教育学域教育学系・准教授)

専門分野 住居学、家政学、家庭科教育学

所属学会 日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本建築学会、日本民俗建築学会、人間－生活環境系学会、日本安全教育学会、日本自然災害学会



貢献可能な活動

●防災・減災に関する実態調査

学校現場や地域住民に防災・減災に関する実態調査を行い、得られた結果(実態や課題)をもとに、下記のような研究活動を行っています。



●学校教育における防災教育の充実に向けて

学校教育における防災教育の充実に向けて、授業や教材の開発を行っています。

- 例) 鹿児島市防災ノート (鹿児島市HP参照)
水防災河川学習プログラム
(国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所HP参照)



●家庭や地域における防災力の向上に向けて

家庭や地域における防災力の向上に向けて、講話やワークショップ等を行っています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
避難訓練 コンサート	一般市民	川商ホール	劇場と観客が共に災害や事故に対する意識を高めることを目的に、公演最中の災害を想定し、避難訓練を行った。訓練後に防災・減災への意識を高めるために講演を行った。
小学校における ワークショップ ①	小学生と保護者、高校生	清水小学校	8・6水害から30年目を迎え、当時、被害にあった学校区を対象に、小学校においてワークショップを開催した。ワークショップでは、高校生にも参加してもらい、児童・生徒・保護者と多世代で防災・減災について理解を深めた。
小学校における ワークショップ ②	小学生と保護者、大学生	玉江小学校	8・6水害から30年目を迎え、当時、被害にあった学校区を対象に、小学校においてワークショップを開催した。ワークショップでは、鹿児島大学地域防災教育研究センターにて防災士を取得した学生がボランティアとして参加した。
中学校における ワークショップ	中学生と教職員	鹿児島市立長田中学校	8・6水害から30年目を迎え、当時、被害にあった学校区を対象に、中学校においてワークショップを開催した。ワークショップでは、鹿児島地方気象台と連携し、大雨・土砂災害についての理解を深めた。

キーワード

防災教育、教材開発、意識調査

各教員の防災活動

きむら ゆきのぶ
木村 至伸 (理工学域工学系・准教授)

専門分野 構造工学、耐震工学
所属学会 土木学会、地盤工学会、九州橋梁・構造工学研究会
外部委員 国土交通省九州地方整備局総合評価技術委員会、鹿児島市事業評価監視委員会、鹿児島市廃棄物処理施設の設置に関する専門家会議、建設事業イメージアップ連絡協議会



貢献可能な活動

●桜島大噴火に伴う複合災害が建築・社会インフラに及ぼす影響評価

桜島の大正大噴火においては噴火8時間後にM7.1の地震が発生しており、鹿児島市街地側にも大きな被害をもたらしました。そのため、降灰荷重と地震による影響を把握することは火山防災における重要な課題です。ここでは、桜島の大規模噴火時に想定される降灰荷重と地震による複合災害が建築・社会インフラに及ぼす影響について数値シミュレーションによる検討を行っています。

●経年劣化を考慮した耐震性能評価

橋梁の維持管理においては予防保全型のメンテナンスサイクルが多く採用されているが、この予防保全の管理水準には耐震性が考慮されていません。そのため、構造物の劣化に伴って、初期の想定を超える損傷を受ける可能性が懸念されます。ここでは、構造物の経年劣化が損傷評価に与える影響を外部環境別に推定し、耐震性能の観点から修繕時期の予測を行うことで、耐震性を考慮した予防保全型の維持管理シナリオを検討しています。

●累積的損傷を受ける構造物の耐震性能評価

巨大地震が発生した場合には、その震源周辺で地震活動が活発になり、最初の大地震と同等もしくはそれ以上の規模の地震が発生する可能性があります。これらの地震活動は地震被害の拡大やその後の復旧作業に大きな影響を及ぼす可能性があります。ここでは、一連の地震活動を受けた構造物に対する累積的な損傷評価について検討を行っています。

●常時微動観測を用いた地盤震動特性の把握

地震動の震動特性は、震源特性、伝播経路特性、対象地点における地盤の震動特性に依存することが知られており、地盤の震動特性を明らかにすることは耐震設計や地震の被害予測を行う上で極めて重要となります。ここでは、任意地点の常時微動観測を実施し、この観測波形から常備微動H/Vスペクトル比を算出することで地盤の震動特性を把握する検討を行っています。



常時微動観測システム

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
委員会等	行政担当者	鹿児島市役所	鹿児島市廃棄物処理施設の設置に関する専門家会議において、設置施設への廃棄物搬入などに伴って生じると考えられる周辺地域の環境保全（騒音・振動対策）について、技術的アドバイスをを行った。
委員会等	行政担当者	鹿児島市役所	鹿児島市事業評価監視委員会において、鹿児島市が事業主体となって実施している国庫補助事業等について、公共事業の効率性およびその実施過程の透明性を評価するための助言を行った。

キーワード

社会基盤、地震災害、耐震性能評価、地盤の震動特性、常時微動観測

各教員の防災活動

ひら みずき
平 瑞樹 (農水産獣医学域農学系・助教)

専門分野 農地保全学、地盤工学、景観デザイン学、農村計画学、空間情報科学
所属学会 農業農村工学会、土木学会、地盤工学会、農村計画学会、GIS学会、RS学会
外部委員 農林水産省九州農政局法面復旧・設計アドバイザー、国土交通省国土地理院九州地方測量部地理空間情報活用推進に関する九州地区産学官連携協議会幹事、国土交通大臣認可(国官技236号)全国トース技術研究組合理事、鹿児島県景観アドバイザー、鹿児島県日本型直接支払等に係る第三者委員会委員、農村計画学会評議員



貢献可能な活動

●斜面災害の復旧対策

九州内における斜面災害地域での調査・研究を行っています。九州北部豪雨災害、熊本地震、令和2年7月豪雨災害においては、学会で組織する調査研究のメンバー、地域防災教育研究センターの事業として斜面災害の復旧対策への提言や市民への防災・減災意識の啓発に取り組みました。

●農業農村地域における防災・減災対策

中山間地域における防災・減災対策として、石積み擁壁の保全対策や土石流災害で崩壊した棚田・棚畑の現況復旧のための助言等を行っています。さらに、ファームポンドやため池、水路等の農業用施設において老朽化の著しい施設、道路等の機能診断により、農業生産環境の維持と下流域に影響を及ぼさない防災・減災対策のための指導・助言に取り組んでいます。

●災害時のUAV(ドローン)の利活用

災害発生時の現地調査や現況復旧時の施工現場の空撮による把握において、小型ドローンの利用は有効です。特に火山噴火後や豪雨時の土石流危険地域等の立ち入りが規制される地域においても威力を発揮するため、災害情報の共有のための手段として利活用が期待されます。



ドローンによる崩壊斜面の空撮

活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
指導・助言等	九州農政局・地域振興技術者	人吉市・芦北町など	令和2年7月豪雨では、芦北・球磨地域が豪雨による被害が甚大であった。川辺川農業水利事業所管内においては、河川の氾濫による農地の埋没、農道や水路が被害を受けた。また圃場整備団地の斜面の崩壊地の視察を行い、現場から持ち帰った土試料の物理試験などを実施した。そうして、復旧工事のための基礎資料として提供して、法面設計についての指導・助言を行った。
委員会等	北九州市市民・土木学会会員等	北九州市	北九州市内に分布する地質や地形(斜面傾斜角)の違いなどによる雨の降り方と崩壊の関係に関する予測精度を高める方法、および住民の方々にこの考えを分かりやすく説明する方法などを研究し、全国の斜面災害から被害を無くすことを目的としている。
ワークショップ委員会等	自治体・測量設計業協会等	九州管内	九州管内での地理空間情報の活用推進に向けた取組として、産業界、教育機関、行政機関と連携して、特に防災・減災のための空間情報の活用推進に関しての情報共有や意見交換を行った。
指導・助言等	九州農政局・環境コンサルタント	沖永良部島	沖永良部では農業用水の確保のために地下ダム建設による地下水が利用されている。流域内の水管理に加えた施肥計画、地下水の利用に影響を及ぼさないよう対策を講じる必要があり、渇水時の農作物被害も含めた灌漑用水利用について専門的な立場から助言している。
指導・助言等	九州農政局・技術コンサルタント	人吉市	九州農政局川辺川農業水利事業所内の上原田ファームポンド、周囲の斜面形状や取り付け道路ひび割れ等の機能診断業務アドバイザーとして助言を行った。

キーワード

農地災害、農業用施設災害、防災GIS、UAV(ドローン)、グリーンインフラ

各教員の防災活動

やなぎだ のぶひこ

柳田 信彦 (医歯学域医学系・助教)

専門分野 精神科作業療法学・精神科リハビリテーション

所属学会 日本精神神経学会、日本心身医学会、九州精神神経学会、鹿児島精神神経学会

外部委員 鹿児島市介護認定審査会審査委員

鹿児島市障害者自立支援協議会 精神保健福祉部会委員

鹿児島県作業療法士協会理事(学術担当)



貢献可能な活動

●大規模地震やそれにもなう大津波により原子力発電所が被災した際、入院患者避難時の当事者視点からのケアやフォローアップについて

災害により原子力発電所が被災した際、近隣の病院に入院中の患者の避難には特別な配慮が必要です。

その配慮について当事者視点からのケアやフォローアップを基に、医療に従事する方々に対して研修を行い、入院患者の迅速な避難と避難所でのスムーズな生活のために指導・助言ができる人材を育成することを目指しています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
指導・助言等	精神障害者	精神科病院	精神科病院入院中の患者に対する退院へのアドバイスを行う中で災害時の対処についてディスカッションを行う機会を設けた。
指導・助言等	認知症高齢者	高齢者施設	認知症を有する高齢者に対して回想法を行う中で、経験した災害とその対処方法について情報の共有を行った。

キーワード

精神科リハビリテーション、精神障害作業療法、退院支援、再発予防、医療従事者人材育成

各教員の防災活動

ひのくま りか
日隈 利香 (医歯学域医学系・助教)

専門分野 地域在宅(福祉・看護)
所属学会 日本発達障害学会、日本社会福祉学会、日本看護学会、日本看護研究学会



貢献可能な活動

●災害時要配慮者である障がい児者とその家族を対象とした防災・減災に関する調査

～現在の防災・減災対策の現状と問題点、当事者・家族が望むこと～

●災害時要配慮者(障がい児者とその家族)に対する防災・減災教育プログラム

知的障がい児や発達障がい児者の多くが環境の変化に順応するのが難しく、時にパニック症状を起こす場合があります。最悪の場合、避難所に行くことすら出来ず行き場を失うことになります。これまで大震災を経験した地域において実施された障がい児者とその家族への支援と防災・減災対策についてまとめ、教育プログラムを作成します。

●災害時要配慮者(障がい児者とその家族)と支援職員(教員含む)に対する防災・減災ワークショップ等の開催

これまで大震災を経験した地域において実施された障がい児者とその家族への支援と防災・減災対策を基に作成した教育プログラムを基に、障がい児者と支援職員と共に防災・減災の在り方について考えるワークショップを開催予定です。

●児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への備えに関する研究発表、講演

～鹿児島市、九州管内、東日本大震災被災3県(岩手県、宮城県、福島県) 其々の調査結果からみえてきたもの～



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
統計データ集掲載発表	一般全て	三冬社	鹿児島大学地震火山地域防災センター令和3年度報告書にて報告した『東日本大震災被災3県(岩手県、宮城県、福島県)の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への備えに関する研究』の調査結果について、出典元明記の上、掲載させて頂きたいとの問合せがあった。調査結果は、三冬社 災害と防災・防犯統計データ集 2022 第4章16に記載された。
学会・ポスター発表	日本発達障害学会会員	1.筑波大学東京キャンパス・オンライン 2.日本発達障害学会事務局・オンライン	1.日本発達障害学会第55回研究大会(2020年12月26～27日 Web開催・査読有)にて採択され、ポスター発表を行った。テーマ:鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みに関する研究。 2.日本発達障害学会第57回研究大会(2022年12月24～25日 Web開催・査読有)にて採択され、ポスター発表を行った。テーマ:九州管内における児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への備えに関する研究。
講演	鹿児島県・市危機管理防災局、鹿児島市消防局等	鹿児島大学・オンライン	第30回鹿児島防災セミナーにおいて『鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みと今後求められるもの』のタイトルで講演した。

キーワード

児童発達支援、放課後等デイサービス施設、災害対策、九州管内データ

各教員の防災活動

いむら りゅうすけ

井村 隆介 (総合教育機構共通教育センター・准教授)

専門分野 地質学、火山学、地震学、自然史、自然災害科学

所属学会 日本地質学会、日本火山学会、活断層学会、日本第四紀学会、日本自然災害学会、日本災害情報学会

外部委員 国土交通省九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター、鹿児島県土砂災害対策アドバイザー、鹿児島市防災専門アドバイザー、奄美市政策アドバイザーほか



貢献可能な活動

●火山噴火・地震・活断層・津波の履歴調査とその災害に関する研究

地形学や地質学の手法を用いて、火山噴火史、地震・津波の発生履歴やその災害に関する調査・研究を行っています。地域の災害リスクを科学的に検討し、それを防災に活かすための研究をしています。

●大規模火山噴火と気候変動・環境変化

南九州の現在の環境を理解するためには、気候変動のような世界規模で起こった環境変動史のほかに、大規模な火山活動による環境変化の歴史を知っておく必要があります。様々な時間スケールでみた環境変遷史の研究をしています。

●自然災害科学の啓発・教育

防災情報は、それが必要な人に、必要なときに、必要なかたちで伝えられないと意味がありません。そのためには、リアルタイムでの状況把握と情報提供が重要です。災害時のメディアへの情報提供はもちろん、普段からの啓発・教育活動に努めています。住民や子どもたちへの講演は年間50回以上になります。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
セミナー	児童クラブ支援員	かごしま市民福祉プラザ	「みんなで考える防災～学校・家庭・地域の役割～」
	鹿児島市消防団	鹿児島市役所	「みんなが考える防災」
招待講演等	JPGU会員	幕張メッセ	日本地球惑星科学連合2022年大会「霧島火山地域における教育プログラム」
	一般	知名町中央公民館	日本島嶼学会「琉球弧と沖永良部島の成立」
指導・助言等	教員・児童・生徒	蒲生中学校	「地震に備える」
		加治木養護学校	「子どもを守るこれからの防災教育，防災体制の在り方について」
委員会等	教育関係者	ふれあいかせだ	鹿児島県教育委員会「鹿児島県の防災教育」
取材対応	各種メディア	スタジオほか	「2022年1月トンガ海底噴火津波」「2022年7月桜島噴火警戒レベル5」「2022年9月台風14号」など

キーワード

火山災害、地震災害、津波災害、土砂災害、自然史、自然災害科学、防災科学教育

各教員の防災活動

なかむら ひろひこ

中村 啓彦 (農水産獣医学域水産学系・教授)

専門分野 海洋物理学、海洋気候学、水産海洋学

所属学会 日本海洋学会、米国地球物理学連合、水産海洋学会

外部委員 鹿児島県海域モニタリング技術委員会、鹿児島県海岸漂着物対策協議会



貢献可能な活動

●南九州の気候変動特性（特に梅雨期の降水量変動）の解説

九州周辺の梅雨期の集中豪雨に対して、東シナ海上で海洋から大気へ供給される熱と水蒸気が重要な役割を果たしていることが、近年の研究からわかってきました。水産学部附属練習船「かごしま丸」を利用して、気象庁/気象研究所との共同研究の一環で梅雨期の東シナ海上の大気観測を実施しています。このような研究活動を通して得た科学的知見を基に、南九州における気候変動特性を解説します。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
取材対応	小学生	鹿児島大学 水産学部	2023年8月に鹿児島放送が企画した「鹿児島お仕事発見隊 報道記者として気候変動について取材しよう！」の一環で、小学生3人から地球温暖化と梅雨期の集中豪雨に関する取材を受けた。取材内容は、後日、【Jチャン+SDGsウィーク テーマ「気候変動」特集】で放送された。
講演	小学生	MBC放送 7Fホール	日本財団海と日本プロジェクト～われはうみの子探検隊～の一環で、「地球温暖化と海」という題目で、地球温暖化の仕組みや、地球温暖化で日本周辺の海洋がどのような影響を受けるかを説明した。

キーワード

気候変動、気象災害、海洋環境、地球温暖化、梅雨

各教員の防災活動

かきぬま たろう
柿沼 太郎 (理工学域工学系・准教授)

専門分野 海岸工学、津波工学、海洋物理学
 所属学会 土木学会、日本海洋学会、水文・水資源学会
 外部委員 土木学会海岸工学委員会委員、土木学会海岸工学委員会波動モデル研究会主査、鹿児島県志布志港長期構想検討委員会委員、鹿児島県公共事業等骨材調達協議会委員、鹿児島市防災専門アドバイザー委員



貢献可能な活動

●津波・高潮のメカニズムや沿岸防災に関する講演

風波と津波の違いや、津波・高潮の発生メカニズムを動画等を用いて解説します。ところで、津波は、様々な原因で発生します。津波を引き起こす原因として、例えば、太平洋の海底地震や、湾内の地すべり及び海底噴火等が挙げられます。更に、遠地の火山が噴火して生じた気圧の波によっても津波が生成されますが、これは、九州西岸等で見られる「あびき」の発生メカニズムと類似しています。こうした種々の津波に関して、数値シミュレーション、水理実験や現地調査の結果に基づき説明します。

●津波・高潮の浸水・被害調査、沿岸域における避難訓練等の視察・助言

スリランカにおける 2004 年インド洋大津波の復興状況調査、バングラデシュでの 2007 年サイクロン・シドルによる高潮の浸水・被害調査、また、岩手県及び宮城県における 2011 年東北津波の浸水・被害調査（右下の写真）を行ないました。そして、こうした経験を活かし、指宿市における小学校避難訓練及び校長研修会や、南種子町平山地区で実施された津波避難のための現地視察及び図上訓練等に参加して、講演及び助言を行ないました。

●沿岸域や海域の物理現象の教育・報道対応

錦江湾高校及び甲南高校の SSH や、県外の高校の理科研究に参加しています。また、子供新聞の夏休み自由研究や、子供科学実験を通して、大きな海洋波動実験施設を用いた水の波の解説等を行ないました。更に、津波・高潮に限らず、沿岸の防災や海域の物理現象に関して、報道対応を行なっています。



活動実績例

活動項目	対象者	場所	活動内容
講演・助言	市民、日本技術士会、企業等	奄美市市民交流センター、稲盛会館、鹿児島市町村自治会館、JX喜入石油基地、南種子町平山地区、与論町、Woodlands Hotel (インド) 等	避難行動に関するシンポジウム、九州本部青年技術士交流委員会公開講演会、日本技術士会鹿児島県支部 CPD 講演会、防災・日本再生シンポジウム、鹿大防災セミナー、教員免許状更新講習、National Safety Day、避難訓練及び図上訓練等で、津波・高潮や、沿岸防災に関する講演・助言を行なった。
授業・研究	小学生、中学生、高校生	高校、鹿児島大学	霧島高校で、防災研究授業に参加し、錦江湾高校で、SSHの研究指導及び講演を行なった。また、鹿児島大学で開催された SSH 全国大会で講演した。更に、志学館高等部で、出前授業を行なった。
メディア対応	市民	各種媒体	各メディアで、取材・投稿依頼に対応した (50 音順)。 県内: 南海日日新聞、毎日新聞社鹿児島支局、南日本新聞； NHK鹿児島放送局、MBC、KKB、KTS、KYT 県外: 岩手めんこいテレビ、東日本放送 全国: 朝日新聞、共同通信社、日本経済新聞、読売新聞； NHK、NHK BS

キーワード

津波、高潮、水の波、流体と構造物の相互干渉、気象に起因する波動・流動、透水性海浜の浸透流、島嶼の統計的性質

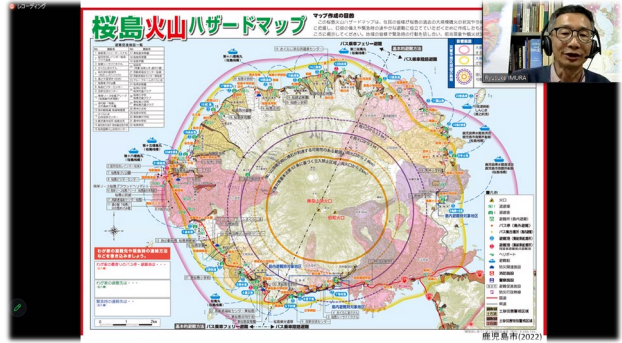
鹿大防災セミナー

「鹿大防災セミナー」とは？

防災に関する教育・研究や行政等の取組について、本センターに関わる教職員および関係機関の情報交換や交流を目的に平成25年度から「鹿大防災セミナー」を実施しています。これまで計41回を開催してきました。セミナーには、どなたでも参加できます。



鹿大防災セミナーの様子



オンラインでの実施を継続しています

令和5年度の鹿大防災セミナーは、5回シリーズで開催しました！

令和5年が鹿児島豪雨災害から30年になるのを機に、改めて、地域防災の中核となる自治体をはじめ、地域住民の皆様が災害や防災について基本的なことを体系的・網羅的に学び、「いざというとき」のために備えていただけるよう5回シリーズで開催しました。

「鹿児島の自然と災害を知ろう」「土砂・河川災害に備えよう」「防災教育教材を活用しよう」「火山・地震・津波災害に備えよう」「災害弱者を守ろう」の5つのテーマを設定し、合計350名の参加がありました。

また、参加後のアンケート調査を新設しました。参加者からの貴重なご意見を次年度の企画の参考としています。

令和5年度 鹿児島大学地域防災教育研究センター

鹿大防災セミナー

参加費：無料

鹿児島大学では、教職員や関係機関との交流を目的として、平成25年度から防災セミナーを計36回開催してきました。本年が鹿児島豪雨災害から30年になるのを機に、改めて、地域防災の中核となる自治体をはじめ地域住民の皆様が災害や防災について基本的なことを体系的・網羅的に学び、「いざというとき」のために備えていただけるよう5回シリーズで企画しました。

<div style="background-color: #003366; color: white; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 第37回 鹿児島島の自然と災害を知ろう </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 10/2 (月) 16:00-17:00 </div> <p>講演1「地域防災教育研究センターの取組、鹿児島の自然と災害」 鹿児島大学農水産獣医学域農学系 教授 鹿島 貴峰 地域防災教育研究センター長 地頭 隆</p> <p>講演2「気象台の地域防災支援の取り組みと防災気象情報」 鹿児島地方気象台 気象防災情報調整官 平山 久貴</p> <p>司会：鹿児島大学農水産獣医学域農学系 准教授 寺本 行秀</p>	<div style="background-color: #003366; color: white; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 第38回 土砂・河川災害に備えよう </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 10/23 (月) 16:00-17:00 </div> <p>講演1「土砂災害の仕組みと防災対策」 鹿児島大学農水産獣医学域農学系 准教授 寺本 行秀</p> <p>講演2「河川災害の仕組みと防災対策」 鹿児島大学理工学域工学系 准教授 齋田 倫範</p> <p>司会：鹿児島大学理工学域工学系 教授 瀧口 一成</p>
<div style="background-color: #003366; color: white; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 第39回 防災教育教材を活用しよう </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 11/20 (月) 16:00-17:30 </div> <p>講演1「学校での防災教育教材の活用(Ⅰ)」 鹿児島大学法文教育学域教育学系 准教授 長岡 貴峰</p> <p>講演2「VR地震体験装置の開発と活用」 鹿児島大学法文教育学域教育学系 准教授 小池 賢太郎</p> <p>講演3「火山版避難経路ゲームの活用」 鹿児島大学法文教育学域教育学系 准教授 松成 裕子</p> <p>司会：鹿児島大学法文教育学域教育学系 准教授 佐藤 宏之</p>	<div style="background-color: #003366; color: white; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 第40回 火山・地震・津波災害に備えよう </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 11/27 (月) 16:00-17:30 </div> <p>講演1「火山学を火山防災に活かす」 鹿児島大学総合教育情報センター 准教授 井村 隆介</p> <p>講演2「地震災害の仕組みと防災」 鹿児島大学理工学域工学系 准教授 小林 勘司</p> <p>講演3「種々の津波の数値シミュレーション」 鹿児島大学理工学域工学系 准教授 齋田 倫範</p> <p>司会：鹿児島大学理工学域工学系 准教授 齋田 倫範</p>
<div style="background-color: #003366; color: white; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 第41回 災害弱者を守ろう </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 1/18 (木) 16:30-18:00 </div> <p>講演1「自治体アンケートから見えた課題と取組の方向」 鹿児島大学法文教育学域教育学系 助教 松田 史代</p> <p>講演2「災害時配慮者・障害者とその家族への支援」 鹿児島大学法文教育学域教育学系 助教 日原 利香</p> <p>講演3「入居患者への避難時のフォローアップ」 鹿児島大学法文教育学域教育学系 助教 朝田 信彦</p> <p>司会：鹿児島大学法文教育学域教育学系 教授 松成 裕子</p>	<p>オンライン開催 (ZOOM)</p> <p>参加申込方法</p> <p>①申込フォーム 右側のQRコードをスキャンして下さい。</p> <p>②電話・メールによる申込 TEL: 099-285-7234 E-mail: bousai@kuas.kagoshima-u.ac.jp</p> <p style="font-size: x-small;">(メール申込みの際は、下記事項を記載) 氏名(敬称付) 鹿児島防災セミナー申込み 本文 本文【住所】 所属 職名【所属】 参加希望の回【必須、選択可】 参加出来る方のメールアドレス【必須】</p> <p style="font-size: x-small;">※日程が変更になる場合がございます。 セミナー申し込み後随時ご変更いただけます。</p>

令和5年度鹿大防災セミナーのチラシ

これまで実施した鹿大防災セミナー

回数	講演テーマ	講演者	開催日
第1回	気象レーダを用いた極端現象の監視と予測 - 現状と今後の研究計画 -	眞木 雅之	2013年6月5日
	被災者と仮設住宅 - 東日本大震災での現状から南九州を考える -	岩船 昌起	
第2回	地域の歴史文化をどのように形成し、豊かにしていくのか - 歴史資料の防災ネットワーク構築にむけた取り組み-	佐藤 宏之	2013年10月2日
	鹿児島県における地震・津波リスク - 高頻度から低頻度まで、大規模から小規模まで-	小林 励司	
第3回	川内川における水害対策の取り組み	宗 琢万	2014年1月16日
	降雨時の斜面崩壊予測システムの構想と研究の進捗状況	酒匂 一成	
第4回	2001年～2012年の桜島火山ガス高濃度事象	坂本 昌弥	2014年5月30日
	地形と環境、防災-鹿児島県の低地を例として	森脇 広	
第5回	福島原子力事故の経験をどう生かすか?	秋葉 澄伯	2014年7月28日
	鹿児島県の緊急被ばく医療体制について	垣花 泰之	
第6回	気象台の発表する防災気象情報について	山下 一実	2014年10月27日
	指定公共機関としての防災・減災への役割	古川 憲洋	
第7回	火災と現場に潜む危険性	斎藤 栄次	2015年1月23日
	鹿児島県の防災対策-自然災害への対策を中心に-	幸 進也	
第8回	災害時の心理と基本的対処法	関山 徹	2015年4月23日
	学校教育における防災教育の充実に向けて	黒光 貴峰	
第9回	平成18年7月豪雨における川内川流域住民の避難行動について	安達 貴浩	2015年10月2日
	土砂災害対策について	戸田 洋一	
第10回	噴煙の映像観測・衛星画像解析と火山防災	木下 紀正	2015年12月10日
	三島村・鬼界カルデラジオパークにおける防災への試み	大岩根 尚	
第11回	気象庁の津波警報について	緒方 誠	2016年2月26日
	津波観測波形を用いた津波波源の逆解析とリアルタイム津波予測	浅野 敏之	
第12回	放射線災害部門における医学部保健学科のこれまでの取り組み	松成 裕子	2016年8月3日
	原子力防災に関する薩摩川内市の取り組み	遠矢 一星	
第13回	歴史的文化財の保全のためのマッピング化の試み-文化財地理情報データベースの利用-	深瀬 浩三	2016年10月20日
	津波の数値シミュレーション	柿沼 太郎	
第14回	川内川流域における地域防災力向上のための研究	安達 貴浩	2016年12月22日
	平成18年7月豪雨時の降雨の時空間分布が川内川の水位上昇速度に与えた影響について	齋田 倫範	
第15回	火山噴火研究のための三次元気象レーダデータ解析ツール(ANT3D)について	眞木 雅之	2017年3月21日
	火山災害と健康支援-地域の文化に即して	丸谷 美紀	
第16回	累積的損傷を受ける構造物の対震性能評価	木村 至伸	2017年6月23日
	地震による地盤災害～液状化と斜面崩壊～	酒匂 一成	
第17回	原子力災害による健康影響-福島県の現状について-	土橋 仁美	2017年8月8日
	鹿児島県における保健師の放射線に関する実態調査から	松川 京子	
	噴煙柱崩壊で火砕流が発生する物理条件に関する理論・観測研究	石峯 康浩	
第18回	K T S 防災プロジェクト イザ!カエルキャラバン	渡司 陵太	2017年11月6日
	リスクコミュニケーション～桜島大噴火を例に	桐野 秀吾	
第19回	擁壁崩壊にともなう地盤内の変形メカニズムの評価～擁壁の転倒や孕み出しによる地盤変形の可視化～	平 瑞樹	2018年2月22日

これまで実施した鹿大防災セミナー

回数	講演テーマ	講演者	開催日
第19回	鹿児島県で発生した種々の地すべり事例	三田 和朗	2018年2月22日
第20回	地震火山地域防災センターについて	地頭菌 隆	2018年5月9日
	南九州、北部南西諸島域での地震火山観測研究	中尾 茂	
第21回	海底地震観測で得られた巨大地震前後の地震活動変化 - 2011年東北地方太平洋沖地震 -	仲谷 幸浩	2018年9月11日
	日本における原子力災害医療体制に関する実態調査	吉永 健嗣	
第22回	鹿児島県の原子力災害拠点病院としての当院の課題と今後の取り組みについて	土橋 仁美	2019年3月14日
	大規模災害時の歯科的身元確認業務について	田松 裕一	
	災害時の情報伝達手段の整備	升屋 正人	
	桜島から噴出する火山灰に含まれる斜長石の構造状態について	松井 智彰	
第23回	熊本地震から見たこれからの土木の在り方	小池賢太郎	2019年6月18日
	レジリエントな地域社会の実現に向けた防災減災の取り組み	中谷 剛	
第24回	最近の地震に関するスライド教材の開発と2019年5月10日日向灘の地震 (M6.3) の例	小林 励司	2019年9月12日
	離島における介護職者の防災に対する認識について - 奄美市と五島市の比較 -	今村 圭子	
第25回	防災と自然体験活動のすすめ	福満 博隆	2019年11月27日
	島嶼域サトウキビ圃場の消費水量	肥山 浩樹	
第26回	3.11以降の災害支援・災害調査活動の振り返り - 東日本大震災・熊本地震・口永良部島噴火・東シナ海油類漂着・硫黄山白濁水流出 -	西 隆一郎	2020年1月22日
	地震体験から得られること・伝えたいこと	審良 善和	
第27回	船舶レーダによる噴石の検出	眞木 雅之	2020年11月4日
	原位試験の材料パラメータを用いた有限要素解析	平 瑞樹	
第28回	データ同化を用いた土中水分量の計測データに基づく不飽和浸透特性の推定	伊藤 真一	2021年2月10日
	桜島大規模噴火を想定した降灰シミュレーション	中谷 剛	
第29回	桜島大規模噴火に伴う軽石による港湾埋没過程の検討	長山 昭夫	2021年3月8日
	浅瀬を有する島嶼に入射する津波の数値解析	柿沼 太郎	
第30回	AI (人工知能) 技術を利用した桜島大正噴火 (1914年) 写真のカラー化とそれを活用した啓発活動	井村 隆介	2021年6月8日
	鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みの現状と今後求められるもの	日隈 利香	
第31回	桜島から噴出する火山灰を構成する斜長石の構造状態に関する研究 - 火山防災上の意義と今後の課題 -	松井 智彰	2021年8月31日
	桜島火山版避難所運営ゲーム (HUG) 開発について	松成 裕子	
第32回	GISを活用した桜島噴火による降灰を対象とした防災教材の作成	中谷 剛	2021年11月29日
	自然災害を想定した文化財保全オンラインワークショップの試み	佐藤 宏之	
第33回	近年の豪雨に伴ういくつかの事象と関連する研究の取り組みについて	齋田 倫範	2022年3月15日
	沖永良部島における侵食ともなう農地災害防止に関する基礎的研究	肥山 浩樹	
第34回	機械学習による斜面崩壊予測に関する研究	伊藤 真一	2022年10月13日
	地域防災教育研究センターの新たな取り組みについて	地頭菌 隆	
	桜島の大規模火山噴火前後における事象の発生過程に関する調査	酒匂 一成	
	大規模火山噴火後に起こりうる複合災害の事例収集・分析とそのメカニズム検討	齋田 倫範	
	大規模火山噴火およびその後の複合災害が与える市民生活、地域産業、インフラ等への影響評価	寺本 行芳	

これまで実施した鹿大防災セミナー

回数	講演テーマ	講演者	開催日
第35回	学校・家庭・地域の防災力の向上に向けた取組	黒光 貴峰	2023年2月20日
	精神科病院に従事する医療関係者を対象とした防災啓発活動の取組	柳田 信彦	
第36回	1914年桜島地震における鹿児島市内の震度分布	小林 励司	2023年3月16日
	保健学科における新たな地域防災と地域連携を推進する事業計画について ～チーム医療実習における要避難支援者への避難行動に係る支援計画～	松成 裕子	
第37回	地域防災教育研究センターの取組、鹿児島島の自然と災害	地頭菌 隆	2023年10月2日
	気象台の地域防災支援の取り組みと防災気象情報	平山 久貴	
第38回	土砂災害の仕組みと防災対策	寺本 行芳	2023年10月23日
	河川災害の仕組みと防災対策	齋田 倫範	
第39回	学校での防災教育教材の活用	黒光 貴峰	2023年11月20日
	VR地震体験装置の開発と活用	小池賢太郎	
	桜島火山版避難所運営ゲーム（HUG）の実践活動から原子力災害版への開発	松成 裕子	
第40回	火山学を火山防災に活かす	井村 隆介	2023年11月27日
	地震災害の仕組みと防災	小林 励司	
	種々の津波の数値シミュレーション	柿沼 太郎	
第41回	自治体アンケートから見えた課題と取組の方向	松田 史代	2024年1月18日
	災害時要配慮者（障害児者とその家族）への支援	日隈 利香	
	入院患者への避難時のフォローアップについて	柳田 信彦	

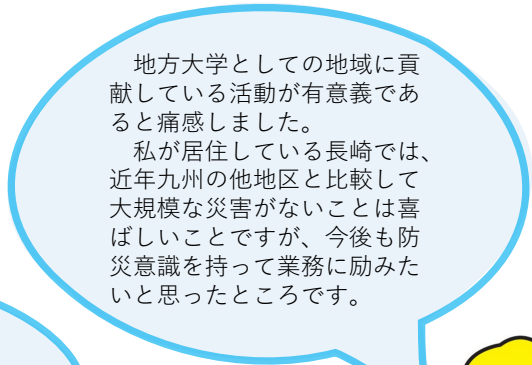
参加者の声



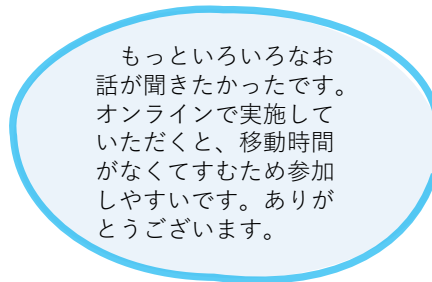
大変有意義な内容で、とても勉強になりました。資料も共有してくださり、わかりやすかったです。また開催されるようでしたら、ご案内いただけるとありがたいです。



とても良い講義でした。ライブラリーにして見返す様に出来たら嬉しいですね！！



地方大学としての地域に貢献している活動が有意義であると痛感しました。
私が居住している長崎では、近年九州の他地区と比較して大規模な災害がないことは喜ばしいことですが、今後も防災意識を持って業務に励みたいと思ったところです。



もっといろいろなお話が聞きたかったです。オンラインで実施していただくと、移動時間がなくてすむため参加しやすいです。ありがとうございます。



市民向けの防災に関して内容的に満足しています。これからも啓発を行い、減災・防災のご指導宜しくお願ひします。

※令和5年度に実施した各回の参加後アンケート調査から抜粋したものです。

防災シンポジウム

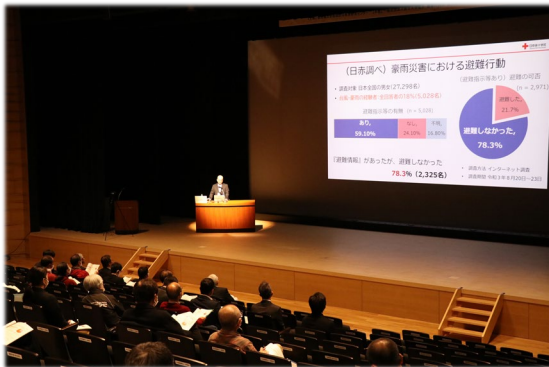
地域防災教育研究センターでは、自治体等学外の組織や個人と連携しながら、毎年シンポジウムを開催し、研究成果の発表や防災教育コンテンツを活用するワークショップ等を通じて、地域防災力向上のための啓発活動などに取り組んでいます。シンポジウムには、どなたでも参加できます。

令和5年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム 「地域共創による災害に強いまちづくりを考える in 薩摩川内市」

令和5年12月10日（日）に薩摩川内市川内駅コンベンションセンターSSプラザせんだいにおいて、標記シンポジウム（主催：鹿児島大学地域防災教育研究センター、共催：一般社団法人国立大学協会、薩摩川内市、鹿児島地方気象台）を、会場とオンライン配信（第一部）の併用で開催しました。当日は、県内外の一般市民、学生、自治体や防災関係機関などから計177名の方々にご参加いただきました。

第一部の防災講演では、大学の研究成果に基づいた土砂・河川・地震災害の発生の仕組みと対策について、また日本赤十字社による避難のあり方と避難行動について理解を深めました。第二部の防災教室では、鹿児島地方気象台による大雨の備えで大切なことを学び、また本センターが開発した原子力災害版の避難所運営ゲーム（HUG）やVR技術を活用した地震災害を体験しました。

シンポジウムに参加した住民がそれぞれの地域において防災リーダーとしての役割を果たし、地域の防災力向上に貢献することを期待しています。



これまで実施した主な防災シンポジウム

防災シンポジウム	開催日
防災・日本再生シンポジウム「奄美防災シンポジウム～奄美豪雨災害から学ぶ～」(奄美市名瀬公民館)	2011年10月23日
地域防災教育研究センター1周年企画シンポジウム「地域防災力の向上を考える」	2012年10月6日
防災・日本再生シンポジウム「地震・津波に対する学校と地域の防災を考える」(志布志市文化会館)	2013年11月9日
防災・日本再生シンポジウム「桜島火山と地域防災～大正噴火の経験を活かす～」	2014年10月25日
鹿児島大学シンポジウム「島嶼災害の特徴と防災」(鹿児島大学国際島嶼教育研究センター共同主催)	2015年1月31日
鹿児島大学・奄美市教育委員会連携シンポジウム「奄美での津波避難を考える～最先端の防災科学と学校での防災教育～」(奄美文化センターホール)	2015年2月8日
一般公開シンポジウム「霧島山の火山ハザード～2011年を事例として～」(日本地理学連合同主催)	2015年10月11日
防災・日本再生シンポジウム「島嶼の自然災害と防災」	2016年11月26日
防災シンポジウム「熊本地震に関する鹿児島大学の活動報告」	2017年4月8日
防災・日本再生シンポジウム「桜島大規模噴火を想定した災害医療体制の構築」	2017年12月2日
防災・日本再生シンポジウム「南九州固有の地域防災と地域強靱化の最新動向」	2018年11月10日
防災・日本再生シンポジウム「地震火山災害の軽減に貢献する鹿児島大学の観測調査研究」	2019年11月9日
防災・日本再生シンポジウム「大規模火山噴火時の災害医療に挑む～新たな取り組みと研究～」	2020年12月12日
防災・日本再生シンポジウム「桜島大規模噴火時の降灰による地域社会への被害想定と減災対策」	2021年12月11日
レジリエント社会・地域共創シンポジウム「鹿児島大学の地域防災研究最前線～地域防災に貢献する大学の役割を考える～」	2022年12月10日
レジリエント社会・地域共創シンポジウム「地域共創による災害に強いまちづくりを考える in 薩摩川内市」	2023年12月10日

近年の防災シンポジウムチラシ

アクセス



産学交流プラザ 1階



鹿児島大学 郡元キャンパス


鹿児島大学の地域防災活動

2024年9月（第2版）

編集 宋 多情 田代 哲郎

協力 高橋 碧

発行者 鹿児島大学 地域防災教育研究センター

 鹿児島大学
地域防災教育研究センター

Research and Education Center for Natural Hazards

〒890-0065

鹿児島県鹿児島市郡元1-21-40

TEL:099-285-7234

FAX:099-285-8495

E-mail : bousai@kuas.kagoshima-u.ac.jp

